

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名: グローバル人材育成院

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 「④センター業務」に記載	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 該当なし	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 ・グローバル人材育成特別コースを開設し、その運営を着実に行う。 ・グローバル人材育成特別コースを履修する学生以外の学生に対し、「自己のグローバル化」に関する意識の啓発を図る。	<p>平成25年4月にグローバル人材育成特別コースを開設した。定員50人に対して88人の履修申請者があり、うち54人の履修を許可した(1人はその後辞退)。10月には、国際バカロレア入試による秋季入学生1人が加わり、平成25年度の履修学生は54人となった。履修学生の所属は、歯学部を除く10学部及びマッチングプログラムコースと、ほぼ全学にわたっている。</p> <p>特別コースの授業を開始するにあたり、学生への支援体制として、言語教育センター教員(英語の履修相談担当)、国際センター教員(留学相談担当)及び各学部等教員(学部の事情に応じた履修相談担当)から成る履修アドバイザー体制を整備した。履修アドバイザーは、随時、学生からの相談を受け付けるほか、学期ごとに担当学生と個別面談を実施することとした。学生の履修状況等は、履修アドバイザー情報交換会等を通じて共有するなど、相互に協力しながら学生の履修指導にあたった。</p> <p>平成25年度は、特別コース専用授業を計12科目開講し、既定のカリキュラムを着実に実施した。海外サマースクールでは、英国語学研修(ヨーク大学)、カナダ語学研修(ヴィクトリア大学)、タイ異文化研修(チュラロンコン大学&カセサート大学)の三つのコースを実施し、スプリングスクールでは、JICA大学生国際協力フィールドスタディプログラムを組み込んだコースとオーストラリア語学研修(アデレード大学)の二つを実施した。年度末には、特別コースからの海外留学第一号となる学生が、1年間の交換留学に出発した。</p> <p>履修学生のインセンティブとして、海外サマー(スプリング)スクールへの参加及び海外留学に奨学一時金を支給した。また、履修学生専用の学生学習室を整備した。学生学習室では、学生が自習に利用するほか、履修アドバイザーが、勉強会など様々な交流の機会を用意して、学生への働きかけを行った。意欲のある学生には、海外で開催される学生大会等への参加を後押しし、課外指導も行うなど、さらなる意識啓発に努めた。</p> <p>平成25年10月と平成26年1月に、履修学生アンケート調査を実施し、特別コースの教育内容等について、履修学生の率直な感想・意見を聴取した。ほとんどの学生は概ね順調に本コースを履修していると見られ、満足度についても、8割弱の学生が「とても満足している」「やや満足している」と回答した。また、平成25年4月と12月に実施された全学統一TOEIC IPの結果を比較したところ、履修学生は平均77点と全学平均の24点を大幅に上回るスコアの伸びを見せ、とりわけ海外サマースクールに参加した学生は平均109点もの伸びを示した。このことは、特別コース専用の英語授業と海外サマースクールに一定の教育効果があることを示している。</p> <p>履修学生アンケート調査で寄せられた意見等を基に、平成26年度にはIELTS対策授業の新設や授業の選択肢を増やすなど、カリキュラムの充実を図った。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 グローバル人材育成特別コースの定員と現員 グローバル人材育成特別コースの学部等別履修申請者数 グローバル人材育成特別コースのカリキュラム表、シラバス、履修案内 グローバル人材育成特別コースの開設科目別履修登録者数 グローバル人材育成特別コースのサマープログラムと海外留学・インターンシップの整備状況 グローバル人材育成特別コースのグローバル・コア2(各学部開講科目)の整備状況 グローバル人材育成特別コースにおけるICT活用状況 グローバル人材育成特別コース履修者に対するアンケート グローバル人材育成特別コース履修者のTOEIC-IP点数 グローバル人材育成特別コース履修者の単位修得状況	<p>一方、一般学生に対し、「自己のグローバル化」に関する意識の啓発を図るため、様々な講演会を開催した。5月30日、駐大阪・神戸アメリカ総領事による特別公開講座を開催し、400人近い学生・職員が聴講した。6月26日には、元FAO(国際食糧農業機関)職員による講演会を開催し、理系学生の国際キャリアについて考えさせた。平成26年1月20日には元ユネスコ職員、同月22~23日にはJICA職員の講演会を開催し、国際公務員・国際協力分野の仕事についての関心を惹起した。また、交換留学から帰国した学生の報告会を開催し、後輩学生に刺激を与えた。</p>
【総括記述欄】	
<p>今年度は、グローバル人材育成特別コースの開設初年度であり、四つの専門委員会を軸とする運営体制の整備や、履修アドバイザー制度の創設など、恒常的にコースを運営していくための基盤整備に力を注いだ。カリキュラムについてはまだ試行錯誤の段階であり、学生の意見も聴きながらさらなる充実に努める。また、コース科目の中に学部の専門科目を取り込んでいることが本コースの特色の一つであり、平成26年度以降のグローバル・コア2(各学部開講科目)の開講に向けて、各学部との連携協力を強めていく必要がある。</p> <p>来年度の課題としては、文系学生が順調に留学へと歩を進めているのに対し、理系学生は学部の専門教育の都合上留学を考えると自身が困難な状況にあり、理系学生にどのように対応していくかが大きなポイントとなる。また、2年前期までにコースの必修科目を履修できない医学部生への対応も課題となる。</p>	